

令和6年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 心理学科・助手

申請者氏名 宮下 達哉

研究課題		長期目標達成と関連する個人差要因の検討
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究の目的は、長期目標達成と関連する個人差要因を検討することである。具体的には、長期目標達成要因として暗黙の知能観およびグリットに着目し、これらがどのような影響し合うのか包括的に検討を行う。さらに、そこから得られた基礎的な知見に基づき、実践場面での応用可能性も検討する。研究方法としては、対面授業内および WEB 上での質問紙調査を実施し、量的データの分析から検討を行う。
	研究の 結果	昨年度の研究データを追加し、詳細な分析を実施した結果、グリット (Grit) を構成する2つの下位因子「根気」および「興味の一貫性」のうち、「興味の一貫性」は構成概念妥当性に問題を抱えている可能性が示唆された。 また、被美術教育経験の有無によってグリットに差があるか検討した。具体的には、被美術教育経験のある者として美大生に注目し、美大生と一般学生とのグリットを比較した。研究の結果、美大生は一般学生よりも、グリットの合計得点とその下位因子である「根気」が高いことが示された。これらの結果より、美大生は一般学生よりも、やり抜く力を持ち、かつ努力し続ける粘り強さをもつことが示唆された。これらの知見をまとめて、1件の学会発表を行った。
	研究の 考察・ 反省	研究の遂行自体は問題がないと考える。被美術教育経験の有無によってグリットに差があるという結果を踏まえ、今後はこれら関連の発生機序を精緻に検討する必要があるといえる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 第20回日本感性工学会春季大会 美大生と一般学生との“根性”を比較してみた：グリット (Grit) に注目して 2025年3月5日/京都工芸繊維大学・松ヶ崎キャンパス	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 グリットがレジリエンスに及ぼす影響 日本教育工学会論文誌に投稿予定	